

2017年度のボランティア・NPO 活動センターをふりかえって

センター長 阪口 春彦（短期大学部）

2017年度の本センターにおいては、これまでと同様さまざまな組織や人々と連携、交流を深め、学内外におけるボランティア活動の振興が図れるよう事業を実施してきました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

また、本センターの学生スタッフにより企画された活動が2017年度においても種々展開されました。数多くの学生スタッフが本センターの活動を支えてくれていることに改めて感謝したいと思います。

本センターでは、継続的に東日本大震災の復興支援活動に取り組んできましたが、本年度も宮城県石巻市雄勝町で活動を行うとともに、福島県にてスタディツアーを実施しました。発災から時間が経ち、被災地の状況が刻々と変化しているため、事前の被災地の下見や打ち合わせを丁寧に行うなどして、被災地のニーズに応えられ、かつ参加するボランティアにとっても大きな学びが得られるような活動を模索しました。

大学に設置されているセンターであるため、社会のニーズに応えつつ、参加するボランティアの学びが得られるようなボランティア活動のコーディネートが重要であると考えています。そのため、東日本大震災の復興支援活動以外の取組においても、社会貢献とボランティア自身の学びの両立を心がけています。

また、ボランティアリーダー育成のための各種講座、教養教育科目特別講義「ボランティア・NPO 入門」、海外体験学習プログラム、国内体験学習プログラム等も、これまでと同様に学びを得るための重要な取組として実施してきました。

単に自分がしたいボランティア活動を行うというのではなく、上記のような取組などをおとして社会的な課題に気づき、その課題解決に取り組む必要性を感じたうえでボランティア活動

に取り組んでもらいたい、さらに言えば、取り組んだボランティア活動をとおして新たな社会課題に気づき、その課題を解決するためにはどうしたらいいのかを知りたい、学びたいという意欲や問題意識を持つようになってもらいたいと願っています。

このような社会貢献とボランティア自身の学びが両立するボランティアコーディネートや、ボランティア活動と学びとの循環を生み出すための支援が、本センターの重要な役割であると考えています。

また、少子高齢化、グローバル化、新自由主義の浸透といった社会的変化により、ますますボランティアへの注目が高まっています。このような中、ボランティアが活躍できる場をどのように広げるのかを考えることが重要になっていますが、それだけではなく、このような社会の変化や、その変化の中で生まれてきている新たな社会課題、そしてそれらに対してボランティアあるいは一市民としてどのようにかわっていくべきなのかについて、学生、教職員に伝え、共に考えていくことが本センターの重要な役割になってきていると認識しています。

これらの役割を果たすためには高度なボランティアコーディネートの専門性が必要です。ボランティアコーディネートの専門性のさらなる向上に努め、質の高い事業展開をめざしていきたいと考えております。



